

運行日が季節限定であることからして完全に観光目的のみで運行される路線と言える。路線自体も平成筑豊鉄道の他路線とは隔絶されている。

6.踊り子

踊り子は定期旅客列車であり、料金体系もB特急料金に位置付けられている。一方、始発列車は定期便では下りの始発は東京駅を9時出発、上りの最終は東京駅に17時49分到着であること、現在の料金体系に改定された際に熱海や小田原の乗継割引適用対象から除外されたことを踏まえると観光列車としての側面が強いことが窺える。東京を起点とする特急と比較すると中央方面のあずさかいじ、常磐方面のひたちときわは都市間輸送を主体として早朝から深夜まで運行されており性格が異なる。他方、高崎方面の特急である草津・四万とは、かなりの部分で新幹線と並行するにも関わらず運行されている点、温泉地向け特急である点、運転時間帯などで酷似しており、同様の目的で設定されている特急であると考えられる。

7.サフィール踊り子

サフィール踊り子は伊豆方面の特急列車である踊り子のハイグレードバージョンとして、同車の登場前に同様の位置付けであったスーパービュー踊り子に代わりデビューした車両である。全車グリーン車であるのみならず、通常のグリーン車より格や高いプレミアムグリーンに加え、車内で食事できるカフェテリアや多くの個室を備え、JR東日本の観光特急の中でも特にグレードの高い車両と言える。JR東日本において現在、全車グリーン車の観光特急列車は存在せず、異色の存在と言える。

(院3年 中島)

3. 観光客にとっての観光列車の存在

観光客にとって、観光列車はどのような存在なのだろうか。

一つ目は、「自分たちが行きたい観光地に向かうための交通手段の一つとしての存在」というのが考えられる。観光列車は、旅行客が観光地で行動しやすい時間に合わせた運行などが行われているため、観光客としては非常に使いやすいと思われる。踊り子号など、都心から観光地に向かう列車は特にこの要素が大きいと言える。

二つ目は、「旅行先を移動しながら感じられる存在」たることである。観光列車では、車内にその土地の観光スポットを紹介する広告を掲示されている、その地の特産物が車内で提供されている、乗務員による地域のガイドが行われるなど、移動中でありながら現地に行った気分を味わうことができる。さらに、観光地では速度を落として運行することで、列車に乗っているながら観光地を充分に見ることが出来るような工夫もなされている。こういったサービスを提供することで、観光客はその地についての理解が深まり、現地での観光をより充実したものとすることができる。

三つ目は、「非日常を感じられる空間としての存在」である。サフィール踊り子など、高級観光列車では特にこの傾向は強いと思われる。このような列車では客層を見ても、学生やファミリー層よりも社会人の方が多く、普段の仕事疲れを癒すための旅行をされている方々が主なターゲット層であると考えられる。しかし、リラックスをするための旅行でも、旅行疲れをしてしまうこともある。そういった時

に、前述の地域を感じさせる工夫に加えて、観光列車がゆとりのある空間を提供することで、観光客は旅行の余韻を残したまま、ゆったりとくつろぐことができるだろう。

以上のように、観光客にとって観光列車は観光における足となるだけでなく、その旅をさらに実りのあるものとして享受できる、旅の一つの軸になり得る存在であると言える。

(3年 肥田)

5

提言

1.理想的な観光列車とは

今日、列車は単なる移動手段ではなく、それ自体が高い付加価値を持った観光資源としても機能している。JR九州の豪華寝台列車「ななつ星 in 九州」は3泊4日で一人当たり最高170万円とかなりの高価格となっているにも関わらず、現在も抽選倍率4倍と非常に高い人気を誇る。ななつ星の例は極端かもしれないが、実際に近年の鉄道各社は豪華な設備や質の高いサービスを売りにした観光列車を多く登場させている。例えば、JR東日本は全座席がグリーン車またはさらにグレードの高いプレミアムグリーン車で構成される観光特急列車「サフィール踊り子」を、東武鉄道は展望室やラウンジなど豪華な設備を備えた特急列車「スペーシアX」をデビューさせた。受け入れる観光客の人数を抑えてサービスの質を向上させることで、観光客の満足度を上げると同時に、価格をそれに見合った水準に引き上げることで単価の向上も実現できる。このような戦略は日本に根強い低価格ビジネスからの脱却を促進し、労働者の待遇改善や生産性の向上を期待できる。今日において、観光産業は「量より質」を追求することで、受け入れ側の負担を軽減し、より大きな経済効果を生むことができるだろう。また、最近の傾向として一つの地域の魅力をじっくり味わいたいというニーズが増加している。そのため、特に地方路線の観光列車には地域の特色を盛り込むというアプローチも重要になってくる。例えば、地域の特産品を取り入れた内装、その地域の名物を使用した食事の提供、観光情報の案内などが挙げられる。特に外国人観光客は地域の住民との交流を楽しむ人も多く、観光列車が沿線の地域と一体となって観光を盛り上げていく姿勢はますます重要になっていくだろう。

また、最近では観光においても環境への配慮が求められており、その点でも列車が果たせる役割は大きい。環境省によると、鉄道が排出する単位輸送量(人キロベース)あたりの二酸化炭素は、自家用乗用車の約9分の1、航空の6分の1に過ぎないというデータもある。観光で飛行機を使うかわりに鉄道を利用すれば、環境負荷をかなりの程度抑えることができる。実際に、環境への配慮で先進的なヨーロッパでは環境負荷の低い夜行列車が再び注目されているという。日経新聞によると、スウェーデンの長距離国際列車の運行会社スネルトゲットがスウェーデンのマルメからドイツのベルリンをつなぐ路線を、ストックホルムーベルリン間の夜行路線に転換したところ、乗客数は過去の6倍の水準まで増加したという例もある。確かに飛行機を利用した方が目的地に圧倒的に早く着くことができるのは事実だが、ビジネス利用客と異なり観光客は必ずしもそこまで急いで行くことを求めているとは限らない。現代の移動は何かと速達性が重視されるが、「ゆっくり行く」需要も確かに存在するのではないだろう